



WF SmartFocus 2600

30636

Fisheye

目次

<はじめに>

●安全にお使いいただくために	3
●仕様	5
●各部名称	6

<使用方法>

●YS アダプターの取り付け	7
●バッテリー装填手順	7
●充電方法	8
●操作方法	
点灯／消灯／スタンバイ	9
点灯モード	9
光量調節	9
オートカラーチェンジモード	9
フルスペクトラムライトモード	9
SOS／点滅シグナルモード	9
●EF モード	
EF モードの設定	10
EF モードの光量調節	10
●温度保護機能	
●リモートコントロール	11
●光ファイバーケーブル	11
< メンテナンス >	
●O リングのメンテナンス	12
●浸水テスト	12
●使用後の手入れと保管方法	13
●もしも浸水した場合	13
●オーバーホール	13

*取扱説明書について

- 本書の内容は、予告なく変更することがあります。
- 本書の内容について、誤記、記載漏れ、印刷ミス、不明な点などがありましたら、弊社もしくはお近くの販売店までご連絡をお願いいたします。
- 本書の一部もしくは全部をいかなる方法でも、個人利用を除いて、無断で複写・複製することはできません。

安全にお使いいただくために

- この説明書を必ずお読みの上、正しくお使いください。
- 誤った使い方をされますと、故障や水没の原因となり、修理不能になる場合があります。
- ご使用の際にはこの説明書に従い必ず点検、テストを行ってください。
- 分解、改造、修理に伴う事故などに関し、当社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。また、使用時の人身、物損事故に関しての補償は致しかねます。

安全上の注意

ここに表示した注意事項は、状況によっては重大な結果に結びつくおそれがあります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

-  **危険** 取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容。
-  **警告** 取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
-  **注意** 取扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

危険

- バッテリー接点部同士を、金属板や針金などで接続しないでください。感電や発火の原因になります。
- 本製品を改造・分解しないでください。発熱や発火の原因になります。
- ナイトダイビングや洞窟など暗い水中でのご使用時には、必ず予備のライトをお持ちください。バッテリー切れなど、万一何らかのトラブルが起きた際、パニックにつながる原因になります。

警告

- 本製品を乳児、幼児、小さなお子様など、本製品の取扱いの注意事項などについて理解できない人の手の届く場所に保管しないでください。
- ライト本体にバッテリーを入れたまま保管しないでください。ガスや液の発生によって、人体に影響を及ぼす危険があります。
- 本製品をご自分の目や他の人の目に向けて照射しないでください。失明や視力障害など重大な障害を引き起こすおそれがあります。
- 本製品を燃えやすいものの近くで点灯させないでください。火災の原因となるおそれがあります。
- 必ず専用のバッテリーとチャージャーをご使用ください。他の製品を使用すると本製品を破損させたり、ガスが発生して危険な状態になったりする場合があります。
- 濡れた手でバッテリーやチャージャーを触ると感電する危険性があります。バッテリーは十分に乾いた手で取り扱ってください。

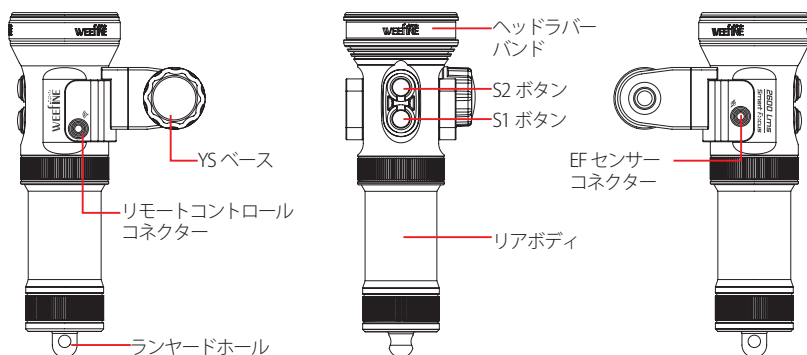
注意

- 本製品は 100 m の水深まで耐えられるように設計されています。それ以上深い場所で使用されたり、それより浅い深度においても衝撃や圧迫を加えますと破損したり、浸水したりするおそれがあります。
- 浸水や故障などの事故を防ぐためにこの説明書を良くお読みになり、ご使用前後に必ず点検とメンテナンスを実施してください。
- 気温が異常に高くなる、あるいは低くなる場所、極端に大きな温度変化がある場所などに本製品を置いたり、保管したりしないでください。部品が劣化し、破損したり防水機能を損なったりするおそれがあります。
- 砂や塵、ほこりなどが多い場所でライト本体を開閉すると、防水部分に異物が付着し、防水性能が損なわれることがあります。
- 飛行機で移動する場合は、本体の O リングを外しておくことをおすすめします。気圧の影響でライトヘッドの取り外しができなくなったり、またその状態で無理に取り外そうとすることで製品を破損してしまうおそれがあります。
- 本製品より異音や異臭がする場合や煙が出たりする場合は、バッテリーを取り外し、お求めになった販売店にて修理をご依頼ください。
- 万一、浸水が発生した場合、速やかに電源を切り、バッテリーを取り外してください。濡れているバッテリーに直接触れると感電の危険性がありますので取扱には十分ご注意ください。
- 万一、浸水が発生した場合、すぐに使用を中止してください。また、浸水している場合、本製品内部の圧力が高くなっていることがあります。ライト本体を開ける際、水が噴き出したり、ライト本体が跳ねたりすることがありますので、十分ご注意ください。
- アルコールやベンジン、シンナーなどの有機系溶剤は、変形などの原因になりますので絶対に使用しないでください。

仕様

	LED	最大光量	色温度	演色性
発光部	白色光（ワイド）	2600lm	6500K	RA90
	白色光（スポット）	1500lm	5000K	RA70
	フルスペクトラム	2600lm	-	RA94 以上
	赤色光	6W		
	緑色光	6W		
		6W+6W		
水中照射角	110°（ワイド）／9°（スポット）			
バッテリー	26650 Li-ion バッテリー（WBL-13C）			
最大光量時連続点灯時間	45 分（ワイド）／90 分（スポット）			
陸上点灯可否	不可			
本体材質	耐腐食アルミ合金、アクリル樹脂			
耐圧水深	100m			
サイズ	φ 47 × 143 × 89mm			
重量	345g（陸上）195g（水中）			
付属品	バッテリー、USB ケーブル、YS ベース、ダイレクトベース、ヘッドラバーバンド×3、スベア O リングセット、O リングリムーバー、O リンググリス、六角レンチ			

各部名称



内蔵 LED 表示

本製品は内蔵 LED の表示により残電量をモニタリングすることができます。

■ 青点灯	満充電からバッテリー残量 80% まで
■ 緑点灯	バッテリー残量 80% 未満から 30% まで
■ 赤点灯	バッテリー残量 30% 未満から 10% まで
■ 赤点滅	セーフティモード (バッテリー残量 10% 未満)
	光量を 20% に落とし約 10 分後に自動消灯
3 回点滅	EF モード

■ 使用方法

■ YS ベースの取付

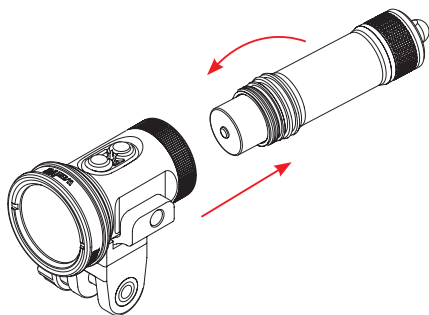
※出荷時は取り付けられた状態です

1. YS ベースの凸と、ライトヘッドのベース取付け部の凹を合わせます。
2. YS ベースに付いている固定ネジをマイナスドライバーにて締め込み、固定します。

NOTE 同様にして付属のダイレクトベースを六角レンチで取り付けることもできます。

■ バッテリー装填手順

1. ライトヘッドをしっかりと持ち、リアボディを反時計回りに回し取り外します。
2. 下図のとおりバッテリーをリアボディへ装填します。バッテリーの+極がライトヘッド側になります。
3. ライトヘッドをしっかりと持ち、リアボディを時計回りに回し取り付けます。



⚠ 注意

●濡れた手や濡れた環境での作業は、感電や破損のおそれがありますので、絶対におやめください。

●リアボディを閉める前には、必ずOリングやOリング溝、Oリング当たり面にゴミや砂などが付着していないことを確認し、Oリングのグリスアップを実施してください。

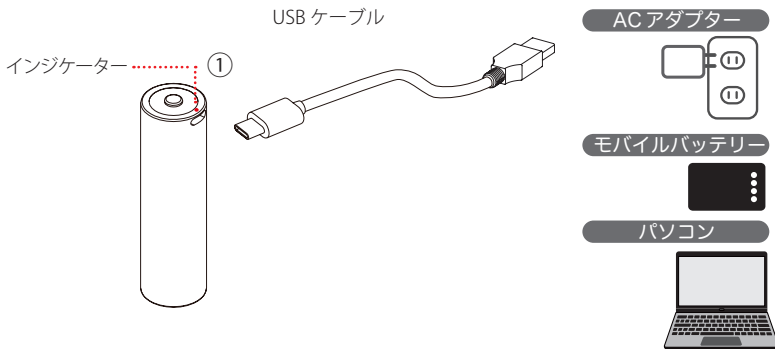
●バッテリーを取り出す際は、落下にご注意ください。バッテリーの破損だけでなく、ケガなどにつながるおそれがあります。

⚠ 警告

●運搬中に誤点灯することがないように、持ち運びの際は本体よりバッテリーを取り外してください。

■ 充電方法

1. 付属の USB ケーブル Type-C をバッテリーの USB 充電口①に差し込みます。
2. USB ケーブルの Type-A 側を、AC アダプター／モバイルバッテリー／パソコン等に差し込み充電します。
＊ AC アダプター等の充電機器は付属していません。
3. バッテリーの充電が完了すると、インジケーターが赤ランプから緑ランプに切り替わります。充電時間は約 2.5 時間ですが、お使いいただく充電機器の出力により、充電時間は前後します。



※付属のバッテリーは、CH-7、CH-9などの充電器で充電を行うことができません。無理に充電すると、バッテリー、充電器ともに破損するおそれがあります。

NOTE バッテリーが満充電の場合、チャージャーに接続してもランプ点灯は緑色のままです。

- ⚠ 危険**
 - バッテリーやチャージャーが熱を持つことがありますので、絶対に紙や絨毯など燃えやすい物の上で充電しないでください。
 - ケーブルを束ねた状態で充電すると発熱で火災の原因になるおそれがありますので絶対にやめください。
- ⚠ 警告**
 - 感電や破損のおそれがありますので、濡れた手や濡れた環境では絶対に作業しないでください。
 - 水没した、あるいは水没しているおそれのあるバッテリーを絶対に充電しないでください。
- ⚠ 注意**
 - 30℃以上の高温になる所や直射日光の当たる所に放置しないでください。
 - 充電中、振動や衝撃、落下などで充電コネクターからプラグがはずれたりしないよう安定した場所で充電してください。また、充電中にプラグが外れてしまった場合、バッテリーが熱を持った状態で再充電せず、常温に戻るのを待って再度充電してください。温度センサーが働いて、フル充電できないことがあります。
 - 付属のバッテリーは、CH-7、CH-9などの充電器に使用できません。無理に装填するとバッテリー、充電器とも損傷する場合があります。

■ 操作方法

点灯

S1、S2 ボタンを同時に 1 秒押します。

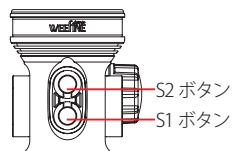
消灯

S1、S2 ボタンを同時に 2 秒押します。

スタンバイ

点灯状態で、S1 ボタンを 2 秒押すと消灯しスタンバイ状態になります。

再度点灯させる場合は、S1 ボタンを 2 秒押します。



注意

光量調節が 0% の状態やスタンバイ状態でも電源は入ったままです。電源を完全に OFF にするには S1、S2 ボタンを同時に 2 秒押し「消灯」状態にしてください。

■ 点灯モード

本製品の点灯モードは下記の種類があり、点灯状態で S1 ボタンを押すごとに切り替わります。

白色光スポット ⇨ 白色光ワイド ⇨ 赤色光 ⇨ 黄色光 (赤色光と緑光の混合) ⇨ オートカラー
チェンジモード ⇨ フルスpektrumライト (⇨ 白色光スポットに循環)

● 光量調節

各点灯モード (オートカラーチェンジモード除く) で、S2 ボタンを押すごとに光量を調整できます。

100% ⇨ 70% ⇨ 50% ⇨ 25% ⇨ 0% (⇨ 100% 循環)

* 消灯した場合は、光量が記憶され、次の点灯時は調整時の光量で点灯します。

● オートカラーチェンジモード

多色 LED を混合させ、赤、オレンジ、黄、緑、シアン、青、紫の 600 色以上の色が自動的に変化します。

・ S2 ボタンを押すと、好みの色で停止できます。再度 S2 ボタンを押すと、色が変わり循環します。

* モードを切り替えたり消灯した場合は、停止した色が記憶され、次の点灯時は停止時の色で点灯します。

* オートカラーチェンジモードでは、光量調整はできません。

● フルスpektrumライトモード

白色光 (ワイド) をベースに、精密に制御されたカラーライトを追加することで、水中での使用に特化したカラースpektrumを最適化し、演色性を RA94 以上に向上させます。暖色系の色再現に優れ、撮影用ライトとしても威力を発揮します。

* EF モードは設定できません。

● SOS / 点滅シグナルモード

・ 消灯状態で S1 ボタンを押しながら S2 ボタンを約 3 秒間以上長押しすると、100% 白色光ワイドの SOS モードに切り替わります。

[3 回の短い点滅] ⇒ [3 回の長い点滅] ⇒ [3 回の短い点滅] ⇒ [消灯] を繰り返します。

・ S1 ボタンを押すと点滅シグナルに切り替わり、短い点滅を繰り返します。再度 S1 ボタンを押すと、SOS に切り替わります。

・ 消灯する場合は、S1 ボタンと S2 ボタンを同時に押します。

■ EF モード

カメラのストロボ光やLED光と連動し白色光ワイドを瞬間光として発光するモードです。静止画撮影で、各点灯モードをフォーカスライトとし、ハウジングのシャッターを切ると通常点灯から瞬間光に切り替わり発光します。

*フルスペクトラムライトモードでは、EF モードは設定できません。

● EF モードの設定

1. 本機の EF センサーコネクターと、ハウジングの外部ストロボコネクターを光ファイバーケーブルで接続します。EF センサーコネクターの形式は SEA&SEA タイプです。
2. 各点灯モードの点灯状態で光量を設定します。(フォーカスライトの設定となります。光量 0%でフォーカスライトは点灯しません)
3. S2 ボタンを約 1 秒程度押すと、内蔵 LED が点滅し EF モードに切り替わります。S2 ボタンを約 1 秒押すと、通常点灯状態に戻ります。

● EF モードの光量調節

- EF モードは、白色光ワイドの光量を 11 段階で調整できます。
0% ⇄ 10% ⇄ 20% ⇄ 30% ⇄ 40% ⇄ 50% ⇄ 60% ⇄ 70% ⇄ 80% ⇄ 90% ⇄ 100%
- S1 ボタンを押すと、光量が下がります。
- S2 ボタンを押すと、光量が上がります。
- 光量を 0%に設定した場合、シャッターを切ると自動消灯するフォーカスライトとしても使用できます。

NOTE

- EF モードは、光ファイバーで接続されたカメラの内蔵フラッシュ光や LED 光に連動し、設定した光量の白色瞬間光を照射します。
- 使用するカメラは、必ず内蔵フラッシュが発光する設定にしてください。
- EF モードは連写撮影にも対応しています。ただし連写速度はカメラの内蔵フラッシュの発光間隔に依存します。
- EF モードの瞬間光は、カメラ側の制御による自動適正露出には対応していません。
- 適正露出で撮影するためは、照射光量、ISO 感度、絞り値、シャッタースピードを組み合わせで調節・調整してください。
- 水中でスムーズに撮影できるよう、あらかじめテスト撮影などで設定を確認しておくことをおすすめします。

■ 温度保護機能

本機は水中での使用のみを目的として設計されています。陸上では使用しないでください。陸上で長時間点灯すると熱が蓄積され、すぐに過熱する可能性があります。使用者の火傷や不快感を防ぐため、センサーがライトの温度が 55℃に達したことを検知すると、温度保護機能が自動的に作動し、ライトの温度が安全な温度範囲に下がるまでライトの輝度が下がり、その後、ライト通常の点灯状態に戻ります。

■ リモートコントロール

本機のリモートコントロールコネクターと「WF リモートコントローラー WFA03」を光ファイバーケーブルで接続します。本機を点灯させた後は、「WF リモートコントローラー WFA03」のボタン操作で本機のボタン操作と同じ操作が可能となります。

リモートコントロールコネクターの形式は SEA&SEA タイプです。

■ 光ファイバーケーブル

推奨ケーブル

接続用の光ファイバーケーブルは、以下をご用意ください。

- Nauticam NA ユニバーサルオプティカルファイバー
- SEA & SEA 光ファイバーケーブルⅡ
- オリンパス 水中光ファイバーケーブル PTCB-E02



注意

挿入しにくい場合は、コネクター先端の O リングに適量のグリスを塗布してください。

■メンテナンス

■Oリングのメンテナンス

本製品はOリングを使用して防水しています。お客様ご自身でメンテナンスや交換が可能なOリングは1ヶ所(2本)です。長期間で使用にならないときは、Oリングに付属のシリコングリスを薄く塗ってから保管してください。また、Oリングは1年毎に交換されることをおすすめします。

! 注意

- Oリングを外す際は、絶対に金属製の鋭利なもの（はさみやナイフ）を使わず、付属の「Oリングリムーバー」をご使用ください。
- Oリングの摩擦や劣化を防ぐため、Oリングの表面に付属のOリンググリスを薄く塗布（グリスアップ）します。その際、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、Oリンググリスが多すぎると、かえってゴミやホコリが付きやすくなりますのでご注意ください。
- Oリング面に小さな傷やひび割れなどがある場合は、絶対に使用せず、すぐにスピアのOリングに交換してください。
- Oリング溝、Oリング接触面にも、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、傷やひびなどがないかもしっかり確認してください。
- Oリング溝にOリングを装着する際、Oリングがねじれたり、はみだしたりしないようにご注意ください。
- OリングやOリング溝のチェック、グリスアップなどは、ボディの開閉ごとに実施してください。

■浸水テスト

本製品の使用前に、浸水テストの実施をおすすめします。水を張った洗い桶や洗面器などに、本製品を水平を保ったまま浸してください。3秒で一度、30秒で一度、3分間で一度、水から取り出して本体を開け、内部に浸水がないことを確認してください。

■ 使用後の手入れと保管方法

1. 使用後は、ライト本体をおよそ 10 ～ 20 分程度、真水に浸けておいてください。また真水の中で、電源 / 調光ボタンを数回押して、ボタンの周囲についた塩分を洗い流してください。
2. 真水から上げたら、弱い流水で洗ってください。強い水流を一定方向から当てると浸水の原因となりますので、絶対におやめください。
3. 水洗い後は、乾いた柔らかい布などで水気をよく拭き取ってください。直射日光による乾燥、ドライヤーやストーブによる乾燥は、故障や変形、破損の原因となりますので絶対におやめください。
4. ご使用後は、Oリングにシリコングリスを薄く塗ってから保管してください。Oリングは1年毎に交換されることをおすすめします。
5. 長時間ご使用されない場合は、高温多湿、直射日光、極端に気温が下がる場所を避けて保管してください。
6. アルコールやシンナー、ベンジンなどの有機系溶剤や中性洗剤は、変形や破損の原因となりますので絶対に使用しないでください。



注意

海水でのご使用後、そのまま放置すると細かいすき間などに塩分が残り、乾燥するとその塩分が結晶となり水に溶けなくなってしまいます。結晶化した塩分は時にOリングを押し上げ、浸水の原因になりますので、必ず真水に浸けて塩分を洗い流してください。

■ もしも浸水した場合

本製品は、万一、本体内部に浸水してもダメージが最小限で抑えられる構造になっていますが、浸水を確認した場合や浸水が疑われる場合は、速やかに本製品の使用を中止し、弊社カスタマーサービスまでご連絡ください。

■ オーバーホール

本製品の使用回数に関わらず、1年から2年に一度の定期的なオーバーホールをおすすめします。製品内部にユーザー自身では交換できない防水パーツを使用しています。これらを定期的に交換・メンテナンスすることで浸水事故を防止し、製品寿命を延ばすことになります。一定期間が経過した製品は、ぜひ弊社カスタマーサービスまでオーバーホールをご依頼ください。